

令和7年度 学校関係者評価及び改善策

(中間・最終)

広中央中学校区 校番 4 学校名 呉市立広小学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	○児童一人一人が主体的に学ぶことができるよう、知・徳・体それぞれに適切な目標設定が成されている。 ○指標について、学力面だけでなく、生活面でも重要な事柄が掲げられており、適切である。
目標達成のための方策の適切さ	A	○落ち着いて授業に取り組めるよう「ベルスタート」や「ひろっこ学びのスタンダード」を意識して取り組んでいる。特に、「ベルスタート」の意識が高まったようでよかった。 ○「いきいきチャレンジ週間」の実施は、児童の健やかな身体の育成に欠かせない。また、保護者の関わり方も重要であるので今後も継続して実施して欲しい。 ○体育活動を推進する取組を上半期に行うとよい。
自己評価の結果の分析の適切さ	A	○先生方が様々な工夫をされていると感じた。 ○全国学力学習状況調査の結果からも学力面における課題があることがわかった。弱点を埋めていくための取組と共に基礎基本の定着を地道に行う必要があると思われる。 ○アンケートの結果では、自己肯定感の高い児童が多いが、低い児童への声かけや見守りをしてほしい。
今後の改善策(案)の適切さ	A	○ベルスタートについて、教師側からのアプローチも必要だが、児童同士でも声かけができ、時間の使い方の重要性を当たり前のこととして捉えられるとよい。 ○国語力に少し課題があるようなので、読書時間を確保し、漢字学習では自分で書くことを大切にしていけるとよい。
その他		○不登校児童への対応の難しさを感じる。PTAとしてもSSRの設置を働きかけたい。 ○日本語教室で、外国にルーツのある児童たちの学びの機会をしっかりと確保することは重要であると感じた。 ○読書の機会を増やしてほしい。図書室の整備もできたので、積極的に取り組んでほしい。 ○先生方の業務が多く大変だと感じるが、子供たちが落ち着いて学校生活を送れるようお願いしたい。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	<p>○B評価以下の項目に対する改善策が確実に実行できるよう、進捗状況を分掌で確認したり、教職員が共有したりできるようにする。</p> <p>○学習面における各学年の課題と改善策を明確にし、授業のUD化や各自の取組を共有する場を設定する。</p> <p>○ICT機器の活用研修を今後も定期的に行い、児童の主体的な学習や教職員の業務改善につなげていくようにする。</p> <p>○防災教育では、学校だけでなく、地域の方にも協力していただき、取り組んでいけるように考えていく。</p>
--------------------	--